

参院委で自公

医療保険改悪法案を可決強行

共産党「反対 「国民皆保険崩す」

参院厚生労働委員会は26日、医療保険制度改悪法案を自民、公明両党の賛成多数で可決を强行しました。日本共産党、民主、元気、無所属クラブ、社民が反対。屋の理事会で賛成を表明していた元気が採決で反対に回り、衆院では賛成した維新が退席するなど、法案の危険性と与党の暴走が浮き彫りとなりました。委員会には朝から傍聴者が多数つめかけ、審議を見

守りました。採決が强行されると、傍聴者から「こんな重大な法案を短時間で決めてしまるのは許せない」との声が上がりました。

反対討論に立った日本共産党の小池晃議員は、「国民皆保険に大穴をあけ、土台から掘り崩す危険な暴走」と厳しく批判しました。

↓関連②⑤面 小池氏は、協会けんぽの国庫補助削減は国の責任後退であり、中小企業の苦境に道をひらくと批判しました。

る国保料のさらなる負担増額。入院食費の1食200円の引き上げや、紹介状な形の目標を決める「医療費適正化計画」と、病床を削減させることの大病院受診の定額負担の導入は、「受診抑制と重症化をもたらす」と反対し整合が求められ、「都道府県を司令塔にした強力な給付費削減の仕組みづくりには、安全性・有効性の審査は、安全な医療の確保を置き去りにし、医療の安心性より製薬会社などのもうけを優先するものであり、「混合診療の全面解禁に道をひらく」と批判しました。